

令和3年8月20日

No. 29

「院長さん きいて！」への回答

「窓のサッシにほこり、黒カビがびっしりとあり、掃除をしてほしい。」とのご意見にお答えします。

ご意見をいただき、ありがとうございます。

窓枠のカビにつきましては、窓枠が木製のため、結露によりカビが木の内部に侵入し黒くなったものと思われます。

普段の清掃でサッシ周りの清掃や結露のふき取りを行っていますが、気になる場合は看護師またはスタッフにお気軽にお申し出ください。

病 院 長

令和3年8月20日

No.30

「院長さん きいて！」への回答

「以前、〇〇でお世話になりました。初めての入院で不安だらけだったのですが、ある男性の看護師さんの対応がとても不愉快に思いました。入院している家族を前にして看護師同士が私に聞こえる様に、私達家族について話をするのは間違っていると思う。言われた方は不愉快。そしてそれをその場で話す必要があるのか疑問です。相手の側に立って相手の気持ちになって看護をして欲しい。」とのご意見にお答えします。

ご意見をいただき、ありがとうございました。

看護師間の情報共有のためであると思いますが、会話する場所に配慮するという点が不足していたことから、患者さんに不快な思いをさせてしまうものでした。大変申し訳ございません。

今後は、看護師の会話を聞いているお子さんにご家族の気持ちに配慮するよう、看護師全体へ再度指導してまいります。

病 院 長

「院長さん きいて！」への回答

「今回は息子が〇〇病と診断され、入院させて頂きました。みなさん優しく接してくれ大変感謝しております。が、少し気になった点を書かせていただきます。『日々看護師がかわるのですが、名前を言わない方がいます』『わからない年齢ではないので、開始時に栄養指導・服薬指導はすべきだと思います』『退院する時、〇〇病のパンフレットをもらったのですが、入院している期間に活用されてはどうか』『〇〇の作り方を指導頂いたのですが、指導するのであれば、自分で1回は作ってみなければだめです』『必要な連絡は全て息子を通してしていました。退院の連絡くらい看護師から電話がきてもよかったのではないかと思います』。少しでも誰かの心にひびいてくれることを期待します。」とのご意見にお答えします。

ご意見をいただき、ありがとうございました。

看護師の指導不足及び指導時の理解不足がありましたこと、誠に申し訳ありませんでした。お子様の知る権利、治療に参加する権利の重要性について、再度指導してまいります。また、指導する際の準備として、十分にその内容を理解して対応することはご指摘のとおり大切な事です。今回のご指摘の内容をしっかりと受け止め、職員に周知してまいります。

病 院 長

令和3年8月20日

No.32

「院長さん きいて！」への回答

「外来予約時間から2時間近く待たされても看護師さん等から何もフォローありませんでした。こちらから申し出ましたが時間管理をきちんとしてください。」とのご意見にお答えします。

ご意見をいただき、ありがとうございました。

長時間お待たせして不快な気持ちにさせてしまいお詫び申し上げます。

時間が超過している場合には、病院スタッフと連携を取り、早めに患者さん家族への声かけを行い状況をお伝えするよう心掛けてまいります。また、看護師も患者さんが声をかけやすいように対応してまいりますので、ご理解をお願いいたします。

病 院 長

「院長さん きいて！」への回答

「今年3月末に移行期医療について質問させていただいた〇〇です。現在30才になる息子が今後どこでどのように医療を受けたらいいのか不安な毎日を送っています。『こどもじゃなくなったら診ない』を、『大人になったから〇〇病院〇〇科へ』と安心して生きていける道すじをお願いします。」とのご意見にお答えします。

ご意見をいただき、ありがとうございました。

当院では令和2年に成人移行期支援ワーキンググループを設置し、成人移行期支援の指針やリーフレットを作成し、成人移行期支援外来を同年4月に開設しました。その後、令和3年に成人移行期支援委員会を設置し、組織的な取り組みを始めたばかりの段階です。その活動内容は、慢性疾患をもつ患者さんに対する自立支援（患者さん自身が病気や薬を理解するための手助け、自律した行動目標の設定など）や成人診療施設への転院を視野に入れた準備などを、様々なスタッフが関わり合いながら介入していくことです。基本的な姿勢としては、慢性疾患の患者さんが社会的に自立して、個々の患者さんが自ら適切な医療を活用することができること、そしてすべての患者さんが年齢

と発達に応じた適切な医療を受けられることを目標にしています。ある一定の年齢に達したから、自動的に転院しなければならないということではありません。

転院という視点からは、一般的に成人診療科が受け入れやすい消化器疾患や腎臓疾患、循環器疾患などに比べ、成人診療科に馴染みの少ない重症心身障害や稀な遺伝性疾患などは、成人医療施設への引き継ぎが困難であるとされています。また、複数の疾患領域を一手に引き受ける小児の医療体制やそれぞれの疾患・病態を複数の施設で診療することなど、一般的な成人の医療体制との違いが、実際に転院するときに医療者や患者さん、そのご家族に戸惑いや誤解を生じる原因になることもあります。

このことから、成人移行期支援を成立させるためには、患者さんの自立支援と医療体制の整備という2つの面を考慮しなければなりません。そしてそれらを成り立たせるためには、患者さん本人とそのご家族、小児診療の医療関係者、成人診療の医療関係者それぞれが移行期支援を理解し、意思疎通を図っていく必要があります。患者さんの基礎疾患、合併症、発達度合い、地域の医療体制など様々な要因により、成人移行期支援の内容は変容するものと考えられます。

当院としては、すべての患者さんが年齢や発達に応じた適切な医療を地域で受けられるような働きかけを、当施設の内外に関わらず今後継続していく方針です。ご理解いただきますようお願いいたします。

病 院 長

「院長さん きいて！」への回答

「コロナウイルス感染対策で、小学校側出入り口から入れないと雨の日車イスの子を玄関に入れて地下駐車場へ停めに行くのが心配。車イスの子は入れるようにしてほしい。」とのご意見にお答えします。

ご意見をいただき、ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、検温チェックを行う必要があることから、現在、入館できる入口を本館及び拓桃館正面玄関と防災センター側入口の3か所に限定しております。

なお、雨など悪天候の場合、拓棟館正面玄関まで行くのが困難な場合には、拓桃館の支援学校側入り口に設置したインターフォンにより、その旨を申し出ていただければ、入館できることとしております。

ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また、入館後は速やかに拓棟館正面玄関で検温を済ませていただきますようお願いいたします。

病 院 長